

# 平成29年度第4回和田区地域協議会 次 第

日時：平成29年9月28日（木）

午後6時30分～

会場：ラーバンセンター 第4研修室

## 1 開 会

## 2 議題等の確認

## 3 報告

（1）平成29年度地域活動支援事業について（報告）

## 4 議題

（1）自主的審議事項

雪を生かした地域づくりの推進について

（2）自主的審議事項

住民組織の充実と地域活性化について

## 5 事務連絡

## 6 閉 会

平成29年度審査・採択結果【追加分】(和田区地域協議会)

資料No.1

【和田区】の予算配分枠: 2,385千円

※ 当日の採点委員数: 13名

順位	整理No.	事業名	提案者名	事業費(千円)	申請額(千円)	評価結果											地域協議会の審査結果	
						基本審査		優先採択審査			共通審査							
						「適合する」の人数	「適合しない」の人数	結果	「該当する」の人数	「該当しない」の人数	公益性	必要性	実現性	参加性	発展性	合計		平均点
1	8	和田地区(大和小学区)交通安全推進事業	上越交通安全協会 和田西部支部	888	887	13	0	優先	13	0	58	59	56	48	54	275	21.2	採択
2	9	町内会自主防災事業	大和2丁目町内会	638	637	13	0	優先	13	0	54	57	53	47	52	263	20.2	採択
3	11	音楽文化による上越妙高駅とその周辺地域の賑わい創出事業	J-Mエコーズ	536	536	12	1	優先	11	1	48	43	46	44	44	225	17.3	採択
4	10	町内子供達の安全と健全育成事業	大和2丁目町内会	321	320	11	2	優先	10	1	40	39	41	41	41	202	15.5	採択
合計				2,383	2,380													

	採択件数	採択額計
合計	4件	2,380千円

予算残額	5千円
------	-----

【附帯意見】

- 整理No.9 町内会自主防災事業(大和2丁目町内会)  
今後も、市の「上越市自主防災組織等活動育成事業補助金」を活用するなどして、必要な防災資機材の整備と充実を図るようお願いします。
- 整理No.10 町内子供達の安全と健全育成事業(大和2丁目町内会)  
設置後の遊具については、町内会の責任の下、点検方法をマニュアル化するなどして、適切な維持管理と安全管理に努めていただくようお願いします。

## 平成 29 年度和田区地域協議会委員研修 概要 (参加者 9 名)

1 日 時 平成 29 年 8 月 3 日 (木) 午前 8 時 00 分～午後 0 時 15 分

2 視察先 公益財団法人 ゆきだるま財団 (上越市安塚区)

### 3 内 容

#### 1. 雪のまち未来館 講話「雪活用は今」

講師 ゆきだるま財団 伊藤親臣チーフスノーマン

- 雪はハンディキャップではなく、資源であり、利用するもの。
- 雪の見方を変え、雪を味方にする。
- 世界のエネルギー消費の約 20%が、食糧の冷蔵のために使われている。
- 日本の国土の 50%が雪国(豪雪地域)で、そこに全人口の 20%が暮らしている。
- そのうち特別豪雪地域で見ると、全人口の 3%。
- 金谷地区大貫では、昭和 38 年まで雪の山を冬期間に作り魚の保冷や冷蔵に使用。
- 雪の山は、約 10 メートルの高さまで積み上げていた。
- 高土地区の妙油にも 6 間四方の穴に雪を貯蔵していた(高田の料亭のもの)。
- 昭和 40 年代に、①冷蔵庫普及率がほぼ 100%となった、②高度成長期に入り雪山を作る人手が確保できなくなった、③衛生基準が厳格化した、ことにより、雪室や雪山による雪保存が行われなくなった。
- 倉庫を雪室に改造した(雪室リノベーションと呼んでいる)雪だけの保冷库では、排出 CO2 が雪を利用しない場合と比べ、76%減らせる。
- 財団が関わった利雪型のコメ貯蔵施設は県内に 7カ所(安塚、柿崎、湯沢町、南魚沼市、魚沼市、阿賀町、十日町市)
- 低温倉庫は室温 15℃という国の基準があるが、古米臭の発生抑制等のために自分たちは 12℃以下を目安としており、雪室では 5℃で貯蔵している。
- 雪で低温貯蔵したコメは味が落ちないため、一年前、二年前の米でも美味しい。
- 酒蔵では八海山酒造が雪室を造り、お酒のほか食品の熟成を行っている。
- その雪室には、年 1 回 3 月に雪入れ(4 月 1,900 m<sup>3</sup>が翌年 1 月末に 660 m<sup>3</sup>)。
- 雪利用による大規模食糧備蓄により、気候変動に備えることができる。
- 日本の雪利用の可能性は、100 万 KW の発電所 15 基分相当のエネルギー。
- 海老名市へ雪を持って行ってイベントをすると、喜ばれる。
- 同じようにナショナルイベントでも、雪イベントをしていきたい。
- 雪を利用して、五輪会場の仮設テント内の冷房ができる。
- 今年 12 年目となる雪の市民会議を開催しており、雪利用の情報交換をしている。
- 雪による貯蔵庫は、電気を使う代わりに雪を使うもので、省エネにつながる。

#### 【質疑】

- 雪を貯める適地は一広く冬期間利用者がいない(ゴミ等が雪に入らない)ところ
- 一般家庭で雪利用可能か一県内で 5 軒、魚沼や板倉など雪下ろしが必要な地域
- 雪はいつ頃まで雪室に一需要期間(いつまで冷やすか)により計算し設計可能

## 2 雪室見学（安塚区和田 旧ほのぼの荘となり）

案内 ゆきだるま財団 伊藤親臣チーフスノーマン

- 雪室は、もともと福祉施設（解体済）と温浴施設（旧ほのぼの荘）のためのもの。
- 地方創生のお金が付いたことから施設整備し、雪室に再度利用。
- 外気温 30℃に対し、雪室内 3℃。
- 上越地域のお酒や農産品、味噌等を低温保存。
- 剪定等で不要となった桜の枝を低温保存し、季節外に咲かせることも試している。
- 屋外にも雪を高さ 3 メートル積み上げ、ウッドチップをかぶせて保管している。
- その雪を、雪室の雪が減ってきたら雪室内に移すこともできる。
- ウッドチップは雪が解けたら堆肥化し、その畑で採れた農産物を雪室で熟成等させる循環を作りたい。

## 3 雪冷房体験 ゆきだるま物産館

- 物産館奥に雪室あり、物産館と蕎麦屋を冷房。
- 内部に雪保存している様子を、小窓から確認可能。
- 案内掲示あり。

以上

## 【雪を生かした地域づくりの推進について】提案書及び意見概要

テーマ	雪を生かした地域づくりの推進について
提案書内容	<p>■提案理由</p> <p>近年、雪を楽しむ取組、雪を利用する事業が行われてきていることから、和田区においても同様の取組により地域の活性化を図ることができると考え、提案するもの。</p> <p>■課題の現状</p> <p>当地域は冬になると多くの積雪があり、除雪の負担があるだけでなく、屋外活動が控えられ冬期は地域活動が停滞しがちである。</p> <p>■今後の見通し</p> <p>雪を楽しむ取組やイベント、雪を利用した事業等を、和田区の団体や組織に提案し、または必要により組織化につなげたうえで、イベントの開催や利雪の事業化へ結び付けていけるものとする。</p> <p>■期待する効果</p> <p>雪と遊ぶイベントや利雪事業が行われれば、冬期間でも、子どもや親、地域との交流が進むとともに、地域が活性化することが期待できる。</p>
これまでの意見概要	<p>【イベント開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○雪と遊ぶ、困る雪を利用して楽しむ。</li> <li>○上越妙高駅周辺で雪に関わるイベント（かまくら・灯ろう作り、除雪車の展示など）をしたらどうか。</li> <li>○雪と遊ぶイベントは、子どもや親、地域との交流、転入者との交流ができる。上越妙高駅乗降客からも寄ってほしい。</li> <li>○イベント時には、和田地区の住民に地域協議会の考えをPRし多くの参加を得る。</li> <li>○イベント開催には、地域活動支援事業を活用。</li> <li>○地域協議会として、和田地区を一緒に盛り上げていけるイベントをするために、どのような組織にお願いしたらよいか。</li> <li>○受け皿組織には、13区の住民組織のように活発に活動できる組織を想定、地域協議会から働きかけをするなど、組織づくりにも協力したい。</li> <li>○例えば、大和倶楽部や和田地区商工会にイベント案を提案し、話し合いができる場を作っていく。</li> <li>○まちづくり市民大学への参加、イベント視察や雪室見学、雪まつりがある地域の地域協議会との交流などを実施する。</li> </ul> <p>【雪利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○雪室に関し、安塚の雪エネルギー専門家から話を聞く勉強会を。 →H29.8.3 ゆきだるま財団視察実施済</li> <li>○雪室を利用している八海山酒造や岩の原ワインの見学を。</li> <li>○雪について勉強し、子どもたち親たちと共に進められるように。</li> <li>○先進地視察や識者による勉強会を通し、知識を深め、それから具体策を検討していきたい。</li> <li>○その後、各方面の組織へ提案していく。その際も、地域協議会も一緒になり、関連したいくつかの組織に集まってもらい、意見交換をして考えていく。</li> </ul>

## 【住民組織の充実と地域活性化について】提案書及び意見概要

テーマ	住民組織の充実と地域活性化について
提案書内容	<p>■提案理由</p> <p>和田区で活動するさまざまな住民組織の連携を強化し、活動の充実を図ることにより、地域活性化を進めることができると考え、提案するもの。</p> <p>■課題の現状</p> <p>和田区では、地域振興、福祉、文化、体育等さまざまな分野の各種団体（住民組織）が活動しているが、個々の活動にとどまり、地域の活性化の動きにつなげられていない。</p> <p>■今後の見通し</p> <p>地域協議会を含めた懇談会の開催等、各種団体が一つの場に集まり意見交換（懇談会）を進めることで、横の連携が図られ、地域の活性化等共通認識が持てると思う。</p> <p>■期待する効果</p> <p>各種団体（住民組織）の連携が強化され、地域活性化の動きにつながるとともに、実現に向けてリーダーの育成が図られることが期待できる。</p>
これまでの意見概要	<p>【懇談会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域協議会を理解してもらうための懇談会を。</li> <li>○これまでの懇談会より少し幅を広げる、中身の濃い話し合いをする。</li> <li>○町内会長会と懇談する機会を持つ。</li> <li>○今後、中身を詰め、懇談の場を。</li> <li>○組織ごとに懇談会を開くことを考えたが、役員が重複していて難しい。</li> <li>○説明会のようなところに個々に集まる人を中心に、話し合いをしたらどうか。</li> </ul> <p>【リーダー育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○消防団の成り手が若い人にいないなかで、リーダー育成は難しい。</li> <li>○若い人が出てくる機会を設け、一緒に話し合う中でリーダー育成を。</li> <li>○子どもたちと一緒に参加する会合により、若い人たちの参加を。</li> <li>○リーダー世代が、子どもたちに町内へ出ていくように教育していない。</li> <li>○若い人たちをリーダーにさせる、町内へ参加させるための意識付けを。</li> <li>○手っ取り早く、若い人たちを中心にリーダー育成をすすめてはどうか。</li> <li>○保護者が子どもと一緒に参加できるテーマを考えていけばよいのでは。</li> <li>○身近な町内の仲間を集め、自らリーダーになって組織を立ち上げ、活性化へ結び付けてはどうか。</li> <li>○町内会が中心になり、その行事に子どもと保護者が一緒に出られるものを考え、参加させるようにしてリーダー育成に結び付けるのが一番良い。</li> </ul> <p>【組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○和田地区にどのような組織があるかを把握し、それらの組織がまとまって話し合う場を作り、組織化していくことが必要。</li> <li>○和田地区振興協議会に入っていない組織から参加してもらい、意見交換をしていけば、横の連携が取れ、またリーダー育成につながる。</li> <li>○福祉分野、文化的分野、体育分野などいろいろな分野の団体を、和田地区振興協議会に集約していけば、振興協議会により和田地区の振興や発展につなげていける。</li> </ul>